

【2023年度】児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		部屋の区切りがないため、アコーディオンカーテンを活用して活動内容に沿って部屋を分けるように工夫しています。
	2 職員の配置数は適切である	○		分散して支援に当たれるように職員個々が目配り、声かけを実践しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		利用児童に応じて手すりを設置する等適宜対応しています。絵や写真で掲示するなど児童、スタッフの双方が情報伝達しやすいように工夫しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		活動中は換気と消毒を徹底し、活動終了後には必ず整理整頓と清掃を行っています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝礼後に前日の活動の振り返りを職員全員で行い、当日の活動の注意点について確認を行っています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者アンケートを行い、その結果について確認を行っています。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価は行えていませんが、他事業所に職員を派遣して研修を行い、各事業所の業務について評価と検証を行って業務改善に繋げています。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		zoomでの研修や社内研修、外部の講師を招いての研修を行っています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別支援計画書を作成する際には面談を行ってニーズを把握するように努めています。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	事業所でのアセスメントツールの使用はありませんが、保護者の方が持参くださった検査結果等を活用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		モニタリングやアセスメントを行って適切な支援項目を選択し、児童発達支援計画書に具体的な内容を記載しています。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		職員に児童発達支援計画の周知し、支援計画に沿った支援が行われているかを日頃の振り返りを通して確認しています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングを行って職員全員で意見を出し合って立案しています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		児童の年齢や特性に配慮しながら、楽しみたり時には挑戦できるようなプログラムになるように職員で意見を出し合って調整しています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動をスムーズに行えるようになることを基本にして個別の活動や課題についても焦点を当てて支援計画を作成しています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼後に行っているミーティングで当日の参加児童を確認して支援の方法や内容を確認しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		翌日の朝礼後のミーティングで前日の支援について振り返りや反省を行って職員で共有し、記録に残しています。
関係機関や保護者との連携	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援終了後に記録を作成し、翌日のミーティングで活用しています。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングの日を設定して職員全員が参加したうえで計画の見直しを検討しています。	
	21 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○	サービス担当者会議には児童発達管理責任者を派遣して参画しています。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関と情報共有を行って連携した支援が行えるように努めています。	
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在のところ受け入れはありませんが、受け入れる場合は責任者を配置して連携の体制を整えます。	
24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在のところ受け入れはありませんが、受け入れる場合は責任者を配置して連絡体制を整えます。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	25	○		支援の方法等について情報を共有し、相互の理解と支援の向上を図っています。	
	26	○		支援の内容や方法について情報を共有し、相互の理解を図っています。	
	27		○		電話による情報共有等は行っていますが、助言や研修は受けれていません。今後は研修等を積極的に受けたいと考えています。
	28		○		実施できていないので、今後連携して交流を増やしていきたいと考えています。
	29		○		今後、積極的に参加していきたいと考えています。
	30	○		送迎の時間を活用して保護者の方と情報共有を積極的に行っています。並行して面談や電話の情報共有も行っています。	
	31		○		現状、ペアレントトレーニングは行えていませんが、送迎や面談、電話等で相談を聞いたり助言をさせていただいています。
	32	○		契約時に丁寧に説明するようにしています。また、契約後でも要望や必要があれば説明させていただくようにしています。	
	33	○		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	
保護者への説明責任等	34	○		定期的な、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	
	35		○		事業所のスペースの関係で難しい面もありますが、今後は積極的に開催して保護者間の連携を図っていきたく考えています。
	36	○		子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	37	○		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	定期的にブログを更新して活動の様子を発信しています。
	38	○		個人情報の取扱いに十分注意している	ブログの作成時を含め個人情報の取り扱いには慎重にしています。
	39	○		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	絵や写真、文字を活用して意思の疎通に配慮しています。
	40		○	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	地域住民の方の招待は行えていませんが、今後少しずつでも行うように努力します。
非常時等の対応	41	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	各マニュアルを策定して、配布できる資料に関しては保護者にも配布して周知を図っています。
	42	○		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	レクリエーションに避難訓練や施設見学を取り入れて実施しています。
	43	○		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	保護者から入念に聞き取りを行って状況を確認して共有しています。
	44	○		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	医師の診断書がある児童については医師の指示に基づく対応をしています。診断のない児童については、保護者の方からよくお話を聞いて対応しています。
	45	○		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハット事例集を作成し、職員で回覧して周知しています。
	46	○		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	行政の研修や社内研修、Zoom研修に積極的に参加しています。
	47	○		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	保護者の方への説明とお話を十分に行って理解を得る事が出来るように努めています。また、身体拘束については個別支援計画にも記載しています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。